〈創立45周年シリーズ〉第4回

モーツァルト室内管弦楽団　第165回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 165. Regulärkonzert

〈モーツァルトとハイドン〉その9

2015年7月19日（日）午後2時■いずみホール

Sonntag, 19. Juli, 2015　14Uhr Izumi Hall Osaka

■主催：モーツァルト室内管弦楽団　http://moz-kam.org
■協賛：いずみホール〔一般財団法人 住友生命福祉文化財団〕
■マネジメント：大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504

＊ロビーでは大阪ユニセフ協会を通じて、世界の子どもたちのための募金活動を行っています。

心から心へ…

Program

モーツァルト室内管弦楽団　第165回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester／165. Regulärkonzert

2015年7月19日（日）午後2時　いずみホール

Sonntag, 19. Juli, 2015　14Uhr　Izumi Hall Osaka

〈モーツァルトとハイドン〉その9

モーツァルト◆交響曲　第36番　ハ長調　K.425《リンツ》

Wolfgang Amadeus Mozart(1756-1791) : Sinfonie Nr.36 C-dur KV425 „Linzer Sinfonie“

Ⅰ. Adagio — Allegro spiritoso

Ⅱ. Andante

Ⅲ. Menuetto

Ⅳ. Presto

モーツァルト◆ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲　変ホ長調　K.364*

Wolfgang Amadeus Mozart(1756-1791) : Symphonie concertante für Violine und Viola Es-dur KV364*

Ⅰ. Allegro maestoso

Ⅱ. Andante

Ⅲ. Presto

*　*　*

ハイドン◆交響曲　第88番　ト長調　Hob.I-88

Joseph Haydn(1732-1809) : Sinfonie Nr.88 G-dur Hob.I-88

Ⅰ. Adagio — Allegro

Ⅱ. Largo

Ⅲ. Menuetto：Allegretto

Ⅳ. Finale：Allegro con spirito

ヴァイオリン：馬渕　清香*／Violine：

ヴィオラ：馬渕　昌子*／Viola：

コンサートマスター：釋　伸司／Konzertmeister：Shinji Shaku

指揮：門　良一／Dirigent：Ryoichi Kado

門　良一

ハイドンとモーツァルトのうるわしい関係

ハイドンとモーツァルトの年齢差は、日本流に言えばふたまわりで親子ほども歳が違うのだが、親しい交わりがあり互いに尊敬しあい影響を与えあったという点で、音楽史上稀なうるわしい関係にあったと言えよう。

この二人の関係が良好であったのには現実的な理由があった。それは二人が音楽のジャンルにおいて見事なまでの棲み分けを行っていたからである。モーツァルトが得意なのはピアノ協奏曲とオペラ、ハイドンが得意としたのは交響曲と弦楽四重奏曲であった。それぞれの領域において相手の優位を完全に認めあっていたのである。よく知られているのは、モーツァルトが《ハイドン・セット》と今日呼ばれている弦楽四重奏曲集の出版に当たってハイドンへの献呈の辞を書いており、また「自分が弦楽四重奏曲の書き方を教わったのはハイドンからだ」と述べていることである。一方ハイドンは、ある貴族からオペラ作品を求められたとき、「あの偉大なモーツァルトの作品に優るものを書けるとは思わない」と言って断っているのである。また、協奏曲の分野では、モーツァルトはピアノ以外ではヴァイオリンや管楽器のための傑作が多く、ハイドンはモーツァルトが苦手としたチェロのための協奏曲に名曲を残している。

さて、交響曲の分野でもモーツァルトが師としたのはハイドンであった。本日の演奏ではモーツァルトが1783年に作曲した《リンツ交響曲》とハイドンが1787年に作曲した《第88番》とをお聴きいただいて比較していただこうという趣向である。そこで、**《リンツ交響曲》においてモーツァルトがハイドンから受けた影響と考えられる点を列挙してみよう。**

・第1楽章の冒頭に遅いテンポの序奏がついている。

序奏というのはハイドンが確立した形である。彼の100曲あまりの交響曲のうち3分の1に序奏がついており、特にロンドンで書いた最後の12曲からなる《ザロモン交響曲》で序奏のないのは1曲だけである。モーツァルトは《リンツ交響曲》で初めて序奏をつけた。その後の第38番《プラハ》と第39番にも序奏がある。ハイドンの序奏は短くてあっさりしており、いわば「助走」であるのに対し、モーツァルトのは長めで独自のストーリーを持っている。だが《リンツ》では短めになっている。

・第3楽章にメヌエットを置いた4楽章形式になっている。

メヌエットを含む4楽章形式もハイドンが確立した。モーツァルトのそれまでの交響曲は3楽章形式のものが多い。第31番《パリ》、第32番、第34番はいずれも3楽章である。第33番はメヌエットがあるが、これは後から追加作曲されたものである。第35番《ハフナー》はもともと交響曲ではなくセレナーデとして作曲されたのでメヌエットは当初からあり、それが交響曲に改編された結果、たまたま4楽章となったものである。

・全体の曲想が単純明快であっさりしている。モーツァルト独特の哀愁感に満ちた影の部分が少ない。

スコア（総譜）の「譜面づら」（変な日本語だが）が空白の多い非常にシンプルな印象で、ハイドンのものに酷似している。モーツァルトらしい細部へのこだわりや装飾が極めて少ない。

・第3楽章メヌエットの中間部（トリオ）が管楽器のソロ（オーボエ）を中心としている。

メヌエットの中間部をトリオというのは、この部分では室内楽の三重奏（トリオ）が演奏される慣習があったからである。ハイドンの交響曲では、フルート、オーボエ、ファゴットといった管楽器のソロが多く、中には弦楽器のソロもある。

一方で、**《リンツ》においてモーツァルトが独自に行っていることは、**

・緩徐楽章（第2楽章）でトランペットとティンパニを登場させている。

緩徐楽章はテンポも遅く静かな雰囲気を持つのが普通であるから、「鳴りもの」であるラッパや太鼓は休むものだが、《リンツ》におけるこの起用は極めて異例であり、この時点ではハイドンもまだやっていなかったので、保守主義者のモーツァルトにしては革命的と言える。ハイドンがトランペットとティンパニを緩徐楽章で用いるのは実は本日演奏する《第88番》が最初なのである。

後述するように《リンツ交響曲》は大急ぎで仕上げる必要があったので、ハイドンの様式が全面的に取り入れられている。しかし随所にモーツァルトらしさが窺われ、ハイドンのすっきりした形式とモーツァルトの流麗さがうまい具合に混ざり合った傑作となった。第1楽章の序奏は、後の第38番、第39番のものに比べればかなり短いが、その後半にはモーツァルト独特の哀感に満ちた影が現れ、単なる序奏にとどまらず雄弁なものとなっている。この傾向はハイドンの後の《ザロモン交響曲》の序奏部に影響を与えているように思われる。メヌエットは数あるモーツァルトのメヌエットの中でも名曲の一つであり、トリオのオーボエのソロは、そのオクターブ下がヴァイオリンによって支えられてはいるが、後のハイドンの第96番《奇蹟》のメヌエットのすばらしいオーボエ・ソロにつながっていくように思えるのだがどうだろうか。

第2楽章におけるトランペットとティンパニの使用は極めてユニークで、いわゆる「鳴りもの」とされるこれらの楽器を弱奏で登場させ、宗教的とも言える荘厳感を生み出している。ハイドンは《第88番》においてこれらの楽器を第1楽章では休ませておき、第2楽章で初めて登場させ、しかもいきなり強奏させている。いかにもハイドンらしいやり方だが、《リンツ》を意識してのモーツァルトに対する対抗心の現れであろう。《リンツ》の終楽章は全くハイドン的であると同時に、ハイドンには絶対にこんなフィナーレは書けないと思わせる程にモーツァ

ルト的でもある。

「一を聞いて十を知る」天才モーツァルトは、ハイドンの作品を一瞥するだけでその技法をすべて把握しながらも、単なる模倣におちいらずユニークな音楽を生み出した。一方のハイドンは、苦労して生み出した自分の流儀をいとも簡単に盗み出すモーツァルトになかばあきれながら、その成果を大いに認めたにちがいない。ハイドンはモーツァルトのように器用ではなかったから時間はかかったが、それをまた自分のスタイルに取り入れるのにやぶさかではなかったのである。

モーツァルト：交響曲 第36番 ハ長調 K.425《リンツ》

1783年の夏、モーツァルトは前年に結婚した妻コンスタンツェを伴い故郷ザルツブルクに里帰りをした。10月の終りにウィーンに帰る途中リンツに立ち寄った際、その地の貴族の歓待を受け演奏会の開催を要請される。『11月4日の火曜日に、当地の劇場で演奏会をします。で、私は今手もとにシンフォニーを一つも持っていませんから、大あわてで新しいのを一つ書きます。これはその日までに仕上げなければなりません。』(1783年10月31日、リンツから父親への手紙)。交響曲という形式は当時は演奏会のメイン・プログラムとはならなかったが、開演と終演の際に必要とされたのである。「モーツァルトは、模範があまりにも近くにあり、この場合のように、大急ぎで、あらかじめ長く考慮せずに仕事をしなければならない時には、いつも少し束縛される。」と、この交響曲がハイドンの作品をモデルとしていることについてモーツァルト研究家アルフレート・アインシュタインは述べている。実際、モーツァルトがハイドンの交響曲3曲のはじめの数小節を写した楽譜があるのだが(K.387d、ハイドンの第47、62、75番)、そのうちのどれからも《リンツ交響曲》との共通点は見出されないのだ。上述したように《リンツ交響曲》が数日間で作曲されたことはモーツァルトの天才ぶりを示す一つの例として挙げられるものだが、作品自体は大変好評を得て、その後ウィーンでも再三演奏されたようだ。このリンツの演奏会では、ハイドンの弟ミヒャエル・ハイドンの作曲したト長調の交響曲にモーツァルトが序奏を付けたもの(当初、モーツァルトの交響曲 第37番 K.444と位置づけられた曲)も演奏されたと推定されている。

モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K.364

1777～79年のいわゆる「マンハイム・パリ旅行」において、モーツァルトは新しい活動の地を得ることには成功しなかったが、音楽的には多くの収穫を手にした。この作品はザルツブルク帰郷後の豊作期に生まれた最高傑作の一つである。「協奏交響曲」という形式はロンドンやパリで一時期大流行し、パリの影響が大きかったマンハイムでも大いに流行っていた。複数の楽器の独奏による協奏曲をこのように呼ぶのであるが、同時に協奏曲と交響曲を合体させたものというニュアンスもある(パリで作曲されたフルートとハープのための協奏曲 K.299やこの協奏交響曲と並行して作曲された2台のピアノのための協奏曲 K.365も協奏交響曲と呼んで何ら差し支えないと思われる)。この作品においてモーツァルトは、ハイドンの影響などみじんも感じさせない独自の境地を展開しており、特にハ短調の第2楽章は超現実的なロマンティシズムに満ち満ちた大傑作であるが、これには《ジュノム》と呼ばれるピアノ協奏曲第9番の第2楽章(同じくハ短調)という先駆がある。また、地味な楽器のヴィオラを独奏に起用し、その存在感を大いに高めたことも特筆に値する。モーツァルトの原譜においてはヴィオラ独奏パートはこの曲の調である変ホ長調より半音低いニ長調で書かれており、ヴィオラ奏者は楽器の各弦を通常より半音高く調弦して演奏しなければならない。ニ長調で演奏することにより開放弦が多く使え、音量が大きくなり、音色も明るくなるのである。本日の独奏者、馬淵昌子さんはこの珍しいオリジナル・チューニングで演奏されるので注目していただきたい。

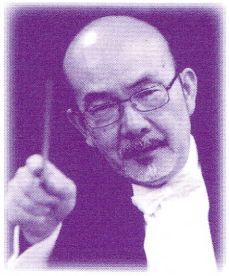
ハイドン：交響曲 第88番 ト長調 Hob.I-88

1787年、ハイドン55歳の時に作曲されたこの交響曲は、ハイドンが仕えたエステルハージ侯爵家の楽団のヴァイオリン奏者であったヨハン・トストが職を辞してパリに行くにあたり、続く第89番の交響曲と6曲の弦楽四重奏曲(作品54、55)とともに贈られたものである。第88、89番の2曲はこのため「トスト交響曲」と呼ばれる。第88番は、1785～6年の6曲からなる《パリ交響曲》(第82～87番)と、1791年以降の12曲からなる《ザロモン交響曲》(第93～104番)の間にあって傑作の誉れ高い名曲であるが、名前がついていないのが惜しまれる。第1楽章は短い序奏のついた快調なアレグロ、第2楽章はオーボエと独奏チェロによって奏でられる旋律がよく知られている。第3楽章メヌエットの中間部ではバグパイプのドローン(低音で奏される持続音)を模した響きが印象的である。第4楽章はまさにハイドンならではの快活で興奮を呼ぶフィナーレである。

[参考文献]
・アルフレート・アインシュタイン著、浅井真男訳「モーツァルト―その人間と作品―」、白水社、1961年
・大宮真琴著「新版 ハイドン」、音楽之友社、1981年

Profile

門　良一●指揮　*Ryoichi Kado, Dirigent*



1939年大阪生まれ。1962年京都大学理学部物理学科卒業、67年同大学院終了。京都大学オーケストラには学部、大学院を通じて10年間在籍し、フルート奏者、指揮者を務め、同オーケストラの発展に多大な貢献をする。また、客演指揮者の故近衛秀麿、故朝比奈隆、故岩城宏之、故若杉　弘、故奥田道昭、秋山和慶各氏等のもとで副指揮者を務め、薫陶を受ける。70年モーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり、同楽団を日本有数のプロ室内オーケストラに育て上げた。モーツァルト、ハイドン等の古典派の作品を35人の室内オーケストラで優雅に繊細に演奏する独自のスタイルを確立している。企画力にも優れ、モーツァルトの「予約演奏会の再現」やオペラ《イドメネオ》の世界初ノーカット上演などの大きな企画を成功させている。また、世界的名手との協演も多く、ピアノのマリア=ジョアオ・ピリス、シプリアン・カツァリス、ヴァイオリンのライナー・キュッヒル、ホルンのペーター・ダム等との協演においてはソリストの絶大な信頼を得て大成功を収めている。近年は古典派だけでなく前期ロマン派やフランス音楽においても、企画、演奏両面で注目すべき成果を上げている。アマチュアの指導にも熱意を持ち、京都産業大学神山交響楽団の音楽監督・常任指揮者を創立時より務めている。モーツァルト研究者として知られ、1982～2011年NHK大阪文化センター、1992～2011年同神戸文化センターにおいて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。

馬渕清香●ヴァイオリン　*Sayaka Mabuchi, Violin*

大阪府出身。3歳よりヴァイオリンを始める。87年全日本学生音楽コンクール第3位、90年同コンクール第1位。桐朋学園大学に入学。在学中、国内外の音楽祭に参加。イタリア・シエナのキジアーナ音楽祭にてファイナルコンサート出演。キジアーナ・ディプロマ賞受賞。97年桐朋学園大学卒業。コンセールヴィヴァン・オーディション最優秀賞受賞。スイス・ローザンヌVn. Pf. アカデミー参加。イタリア・グッビオ国際Duoコンクール入選。東京国際芸術協会主催新人オーディション合格。同協会レ・スプレンデル音楽コンクール室内楽部門入賞。これまでに、小国英樹、原田幸一郎、工藤千博、森悠子、田辺良子の各氏に、室内楽を岩崎淑、R.ブレンゴラの各氏に師事。現在、Duo Moon Stones、四次元三重奏団のメンバーとして活動する他、オーケストラ、室内楽、ソロ等で幅広く活躍している。

馬渕昌子●ヴィオラ　*Shoko Mabuchi, Viola*

大阪府出身。桐朋学園大学及びパリ国立高等音楽院の大学院、卒業。第2回パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール第3位及び特別賞受賞。第3回国民文化祭inひょうご新人音楽コンクール第1位。松尾学術振興財団室内楽コンクール第1位。第5回宝塚ベガホール音楽コンクール弦楽器部門入賞。92年・東京国際音楽コンクール室内楽部門第2位及びアサヒビール賞受賞。93年ミュンヘン国際音楽コンクールヴィオラ部門第3位(1位なし)。これまでに霧島音楽祭、倉敷音楽祭、フィンランド・クフモ音楽祭、イタリア・ドロミテ音楽祭等に出演。現在、国内外でソロ、室内楽を中心に主要オーケストラの客演首席としても活躍中。紀尾井シンフォニエッタ東京、トウキョウ・モーツァルト・プレーヤーズ(首席)、いずみシンフォニエッタ大阪、アンサンブル・ベガ、サイトウキネンオーケストラ、ヴィルタス・クァルテットのメンバー。「馬渕昌子ヴィオラリサイタル」ソロCDがロンドミュージックレーベルよりリリースされている。

★パーティやイベントを音楽の生演奏で★

モーツァルト室内管弦楽団があなたのお手伝いを致します。パーテイやイベントを音楽で盛り上げましょう。
小は二重奏から大は40人のオーケストラまで、ご予算に応じた編成をご提案します。曲目等のリクエストにも応じます。
お問い合わせはお気軽に下記までどうぞ。

モーツァルト室内管弦楽団事務局:090-9286-9290

Profile

モーツァルト室内管弦楽団 *Mozart-Kammerorchester Japan*

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40数年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツァリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を、また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を開催している。

●メンバー　コンサートマスター　釋　伸司

第1ヴァイオリン	釋　伸司　本多　智子　松本　紗希　北村　奈美　森住　憲一　中野　瑞己　大西　秀朋
第2ヴァイオリン	中川　敦史　黒江　郁子　川島多美子　田原口安代　幣　晴代　清水めぐみ
ヴィオラ	道幸　明美　三上　哲　白木原有子　灘儀　育子
チェロ	野田　祐子　三宅　香織　仙波　房子　高田　愛
コントラバス	南出　信一　北田　由美
フルート	大江　浩志
オーボエ	戸田めぐみ　須貝　絵里
ファゴット	倉永　晴美　羽生　尚代
ホルン	佐藤　明美　垣本奈緒子
トランペット	大西　由起　森下　智稔
ティンパニ	泉　純太郎
インスペクター	中川　敦史
ライブラリアン	本多　智子

今後の演奏会のご案内

《第166回定期演奏会》

定期サロンコンサート<クライネモーツァルト>第86回例会<創立45周年シリーズ>第5回
2015年9月22日(火祝)午後2時●天満教会
〈教会音楽シリーズ〉第1回

バッハ:教会カンタータ　第51番　《もろびと、歓呼して神を迎えよ》
バッハ:オルガン協奏曲　ニ短調　BWV1052a(教会カンタータ　第146番、188番より)
モーツァルト:教会ソナタ　ハ長調　K.328
モーツァルト:《主日のための荘厳晩祷》K.321より《主を讃えよ》
モーツァルト:教会ソナタ　ハ長調　K.336
モーツァルト:《告白者のための荘厳晩祷》K.339より《主を讃えよ》

ソプラノ:木村能里子　オルガン:片桐　聖子　トランペット:大西　由起　コンサートマスター:釋　伸司
指揮とお話:門　良一

《第167回定期演奏会》

<創立45周年シリーズ>第6回
2015年12月13日(日)午後2時●いずみホール
〈フランス音楽特集〉

ベルリオーズ:オラトリオ《キリストの幼時》より
第2部《エジプトへの脱出》*
サン=サーンス:チェロ協奏曲　第1番　イ短調　作品33**
フォーレ:レクイエム　作品48***

チェロ:藤森　亮一(N響首席)**　ソプラノ:田中　希美***　テノール:福田　清美*　バリトン:萩原　寛明***
合唱:モーツァルト記念合唱団(合唱指揮:益子　務)*,***　コンサートマスター:釋　伸司
指揮:門　良一

《第168回定期演奏会》

<創立50周年に向けてシリーズ>第1回
2016年1月10日(日)午後3時●いずみホール
〈モーツァルト・オペラシリーズ〉第12回

モーツァルト:《魔笛》K.620　全曲・演奏会形式・字幕付き原語上演

ザラストロ:松下　雅人(バス)　夜の女王:四方　典子(ソプラノ)
タミーノ:諏訪部匡司(テノール)　パミーナ:鬼一　薫(ソプラノ)
パパゲーノ:西尾　岳史(バリトン)　パパゲーナ:西田真由子(ソプラノ)
弁者、僧:萩原 寛明(バスバリトン)　モノスタトス:橋本 恵史(テノール)
第一の侍女:津山　和代(ソプラノ)　第二の侍女:櫻井　孝子(ソプラノ)
第三の侍女:山田　愛子(メゾソプラノ)　第一の童子:朴　華蓮(ソプラノ)
第二の童子:山田　千尋(ソプラノ)　第三の童子:麻生　真弓(メゾソプラノ)
第一の武士:西垣　俊朗(テノール)　第二の武士:西垣　俊紘(バス)
合唱:モーツァルト記念合唱団(合唱指揮:益子　務)
コンサートマスター:釋　伸司
指揮:門　良一
制作:西垣　俊朗、益子　務、門　良一

モーツァルト室内管弦楽団 後援会

事務局 TEL06-6135-0503 / FAX06-6135-0504
大阪市北区天神橋3-3-3南森町イシカワビル5F 大阪アーティスト協会内

会　　長　谷口　安平（京都大学名誉教授）
監　　事　玉井　英二（三井住友カード特別顧問）
顧　　問　伊藤　郁太郎（大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長）　梅原　猛（国際日本文化研究センター顧問）
（50音順）

≪法人会員≫（50音順）

荒川化学工業
遺族支え愛ネット
関西電力
きんでん
小林製薬
阪野商店
三孝社
サントリーホールディングス
新日鐵住金
住友精密工業
住友生命保険
住友倉庫
ダイキン工業
大同ケミカルエンジニアリング
髙松建設
中西金属工業
林六
福山製紙
マキ工業
丸山興産
三井住友カード
三井住友銀行

≪個人会員≫（入会順・敬称略）

深田晴世
福岡隆子
梅原一哲
石本三千也
田村眞也
岸田克己
梅村博也
屋良卍佐治
國友正和
稲垣千代子
浮田俊太郎
桑山弘
三谷郁子
三浦信一郎
水島敬夫
渡辺優子
平川美津子
安藤邦洋
橋本太三雄
阿部由美子
中川泰幸
村本孝夫
松本幸道
笹川忠士
緒林桂子
碓井昭彦
碓井みち子
長井重龜
岸田多門
能田豊
宮井茂治
祐野尚子
金定秀光
金定嘉也子
菅正徳
日高穂
藤原啓助
馬場明和
阪野和子
和田暁夫
桑名孝子
石光正男
髙杉方宏
川島啓助
中井武司
中井佐和子
豊田成子
切畑敦詞
中東富佐子
三石武男
神林恒道
杉浦和子
野村透
今井安男
玉手隆子
野崎志朗
橋本靖昭
有賀熙雄
佐野哲郎
小柳陽一
田中四朗
島村猛
松井とも子
得田栄蔵
菱谷勝次郎
足立宣治
東武次郎
豊田紘生
飯田祐子
宮井芳子
塩脇昭司
塩脇祥子
河渕清子
佐竹時子
荒木陽子
宮崎悦朗
栗原順子
野口祐三
野口外志子
森本武
小山浩
野原清秀
松井基純
松井香代子
山本道子
大磯隆一
細井提吉
大原清司
大原典子
山村哲夫
速水洋紀
橋本博
梁瀬健
松山壽一
松谷郁子
山下鉄男
萬野尊昭
佐野哲昭
八木孝昌
高田早智子
松田富久子
西垣真理子
榎原良行
渡辺義明
小川雄介
能田久美
河井洋子
宮北浩司
奥村一二
市崎英二
櫛木好明
深山浩
加藤啓子
続池美津子
安井敏雄
門謙二郎
早川俊六
森原隆繁
片岡寛子
片岡友子
長谷登
前田純一
冨田恭弘
村井幸雄
乾賢次
井狩彌介
井狩啓子
原田隆宏
村上小夜子
東里香
増見達生
関英夫
曽我見郁夫
筑瀬重喜
苧阪満里子
笠松規子
近藤康博
阪本延夫
松江忠二
増田明子
宇民正
高松孝之
後藤喬雄
今西三郎
今西道子
島村須美子
青山由子
那須一子
文野彰蔵
富田昭子
土橋康男
土橋瑞枝
福谷巌
富田茂利
森崎嘉之
笠松義男
米坂享
太田真知子
富田久枝
和田みつ子
上田吟子
栢眞紀夫
小早川清
金岡幸恵
千葉明朗
西野勇人
匿名　3名

会　　費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。　・法人会員につきましては年会費1口10万円です。
会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。（1口に付き個人各1枚、法人各5枚）
・ご同伴者は10%割引となります。
・関連演奏会のご案内またはご優待を致します。
・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。